

中国は公害大国というイメージが強いが、実は世界トップの風力発電大国であることは余り知られていない。2011年末に中国の風力発電の設備容量は62ギガワットに達し、日本の25倍にも及んでいる。国内市場の成長をバネとして風力発電設備の国内メーカーも世界有数の企業に育っている。中国が今後二酸化炭素の排出を削減する上で風力発電は重要な手段となるだろう。

ただ、中国の成長分野が概してそうであるように、風力発電もいささか過熱気味である。風車はどんどん立てられているが、送配電網の事情により、風

車から発電される電気が送配電網に接続できないケースが少なくない。2011年に増設された18ギガワットの風力発電設備のうち11%は送配電網に接続されていないという。

また、風力発電は風が強い内モンゴル自治区や遼寧省の西部などに集中して立地しているが、これらの地域では石炭火力発電所がコージェネレーションにより熱供給の役割も担っているた

め、冬には石炭火力発電所の稼働を優先し、風力発電所の運転を停止することも多い。こうした現象を中国では「棄風」と呼んでいるが、昨年は本来可能だった発電量のうち20%は棄風により捨てられてしまったという。

日本でも風力発電は発電量がまさに風まかせで、変動が大きいため、電力会社は風力発電所にさまざまな難題をふ

っかけることで送配電網につなぐことをなるべく回避しようとしている。中国は「再生可能エネルギー法」によって送配電会社は再生可能エネルギーによる発電所を送配電網に接続することを義務づけ

られているが、それでもなるべく接続を回避しようとする傾向がある。

そこで中国政府は再生可能エネルギーの利用を着実に増やすために、各送配電会社や地方政府に対して再生可能エネルギー利用のノルマを課するなどさらに強力な手段によって再生可能エネルギーの利用を義務づけようとしている。(丸川知雄・東京大学社会科学研究所教授)

今日の 話題

過熱する「風」